

学部長あいさつ

「待ちに待った夏休みだ！」

SGS News Letter 第10号をお届けします。

新学期がスタートしたのも束の間、春学期が終了し、学生にとっては待ちに待った夏休みの到来である。1年生は、大学生活にも慣れ、大学生としての自覚が芽生えたことだろう。初めての期末試験に緊張したが、それも終わってホッとするとともに、初めての成績発表はどうなるのかと心配している学生もいるかも知れない。

夏休み中に保護者の皆様には、是非ご子息・ご令嬢に次のようなことについて考える機会を促していただきたいと思う。

この半年の自己評価をしてみてもうどうだろうか。2013年夏、真剣に自分のやり遂げたこと、出来なかったことを考えて欲しい。気の合う友達や良き先輩、後輩に巡り合えたか、課外活動を満喫できたか、効率よく時間を使うことができたのか、アルバイトはどうだったのか。アルバイトに時間をとられ、思うように学習に集中できなかったなどということはないと思うが、それにより春学期の成績は、どうなるのかなど色々考えることはあるだろう。春学期を振り返り、秋学期からは様々な教訓として生かすようにして欲しい。今更くよくよすることもあるまい。秋学期に向けて前進するしかない。

次に、高校までの夏休みと何が違うのかを考えて欲しい。春学期の課題や授業で学んだ内容を復習し、秋学期に履修する科目の準備をしてみるなど、大学生の夏休みとして取り組むべきことがあるはずだ。小さな努力により、理解度がかなり違ってくる。まさに「継続は力なり」である。

アメリカの夏休みは6月から9月までの約100日である。その間、学生は大学のサマーコースで授業を履修したり、サマーキャンプで青少年の育成に貢献するために指導員を務めたりする。また、アルバイトをしながら1ドルを稼ぐ難しさやその価値を学ぶ。アメリカの大学では、夏休みに学年が変わるため、課題を行うことはない。そのため、夏休みは好きなことを自由にできる時間がある。しかし、この自由な時間に対する考えは、テキストや教室で学ぶよりも実践的な学習の場と捉えている。すなわち、学生は、秋学期や春学期とは異なり非常に重要な時期だと認識している。

有意義な夏休みを過ごすには、まずは目標設定からスタートする。秋学期に達成したいことは何か、自分で考えることが大切である。私の場合は、秋に始まるアメフト・シーズンに備えるため、週5回～6回筋力トレーニングに専念し、その他の時間は、ランニングを中心とした持久力を付けるためのコンディショニングに没頭した。お陰でいつも汗臭い仲間と共に時間を過ごし、親からしてみれば、悪さするのではなく、また大した出費もなく、日頃から体調管理に明け暮れ、学習や成績はともかく、大学を代表する選手の一人になれて良かったと喜んでくれた。我々選手の目標は何だったのか。要するにシーズン開始に照準を合わせ、コンディションをピークに持って行くことだった。目標設定は、スポーツに限らず、期末試験やTOEICのスコアアップ、就職活動、課外活動等々、様々なことに必要だと考える。そういう意味でも夏休みは秋学期への準備期間であり、体調を整えつつぜひ時間を有効に使って欲しい。



学部長 安田 震一
(ヤスタ シンイチ)
William Shang
(ウィリアム シヤング)

今後のスケジュール

- 9月19日(木)
秋入学生のオリエンテーション
/ TOEIC試験
- 9月20日(金)
秋入学式 / 秋卒業式
/ 健康診断
- 9月21日(土)
夏季休業 終了
- 9月23日(月・祝)
秋分の日(授業あり)
/ 秋学期 授業開始
- 9月30日(月)～10月4日(金)
秋学期 履修登録期間
- 11月2日(土)・11月3日(日・祝)
学園祭-SGS-FESTA
- 12月24日(火)～1月4日(土)
冬季休業期間
- 1月28日(火)～2月1日(土)
秋学期 期末試験期間
- 2月3日(月)
春季休業期間 開始
- 3月20日(木)
卒業式

学園祭情報

今年は、11月2日(土)・3日(日・祝)に開催！
テーマは、「Take Action!～元気・地域・心絆～」です。

後援会役員の皆様のご協力によるコミュニケーションスペースを今年もオープン。保護者様には、是非ご子弟の情報交換の場としてご利用して下さい。

ぜひ、学園祭にお越し下さい。

発行責任者:

学部長 安田 震一

多摩大学
グローバルスタディーズ学部

〒252-0805
神奈川県藤沢市円行802番地
TEL: 0466-82-4141
<http://www.tama.ac.jp>

後援会定期総会・懇親会を開催

グローバルスタディーズ学部第5回後援会定期総会が、6月15日（土）14時から湘南キャンパスにて開催されました。平成24年度の事業報告・決算報告・監査報告、平成25年度の事業計画と予算について審議され、参加の皆様（委任状含む）のご承認をいただきました。

また、平成25年度の役員を後援会役員会で選出し、新会長に御影雅良氏が選出された旨の発表があり承認されました。新会長からは副会長（3名）、監事（2名）、理事19名（常任理事含む）の紹介が行われました。

総会后、特別講演として朝日新聞GLOBE編集長の三浦俊章氏をお招きし、「グローバル体験で拓くキャリア」と題して、海外生活の体験談をもとに、英語の必要性、海外経験の重要性を講話いただきました。質疑応答の時間では、出席された保護者様と活発な意見交換が行われました。

また、「SGSでのグローバル体験と社会人生活」をテーマに3名の卒業生：鮎川礼さん（1期生：内外日東株式会社）、石森啓太さん（1期生：アイリスオーヤマ株式会社）、矢部亮介さん（2期生：株式会社GABA）をパネリストに迎えてのパネルディスカッション（コーディネーター：松林正一郎教授）を開催し、在学時の留学や海外インターンシップでの体験談、社会人生活での様子など、参加した保護者様と在籍生にたいへん参考となるお話をいただきました。

その後、カフェテリアで、懇親会が行われ、会員の皆様、教職員が多数参加し、会員同士の懇親を深め、教職員とも和やかに懇談しながら有意義な時間を過ごしました。



平成25年度後援会役員

会 長	御影 雅良(3年生在籍)
副会長	松田 千久(3年生在籍)・小山 明彦(2年生在籍)・Erik Honobe(SGS学生委員長)
監 事	中村 和臣(2年生在籍)・堀 裕子(2年生在籍)
理 事	秋元 龍之輔(4年生在籍)・鳥越 澄夫(4年生在籍)・日高 京子(4年生在籍)・ 星野 賢(4年生在籍)・山下 ハル子(4年生在籍)・内藤 敦子(3年生在籍)・ 菅野 陽子(2年生在籍)・深澤 由香(2年生在籍)・角田 恵子(1年生在籍)・ 菊池 美香子(1年生在籍)・中村 純郎(1年生在籍)・原口 日出美(1年生在籍)・ パワー 幸枝(1年生在籍)・森山 章彦(1年生在籍)
常任理事	安田 震一(SGS学部長)・宮地 隆夫(SGS事務長・国際交流課課長)・ 瀧川 浩人(SGS学生課課長)・池田 剛透(SGSキャリア支援課課長)・ 清水 克巳(SGS総務課課長)

計25名

国際交流課

夏期留学プログラム・交換留学生受入・危機管理シミュレーション

夏期留学プログラム

例年、短期留学プログラム参加者は夏休み・春休みの年間で50名弱なのですが、今年は夏期のみで42名が海外留学に出発します。春期も同様に多くの学生が海外生活を経験することを期待しています。

- ・モナシュ大学（オーストラリア）2名
- ・クライストチャーチ工科大学（ニュージーランド）2名
- ・ハワイ大学（米国）10名
- ・UCLA（米国）6名
- ・シェフィールド大学（英国）12名
- ・バンクーバーアイランド大学（カナダ）2名
- ・インドにおけるコミュニティーサービス活動 8名

加えて秋学期スタートの長期交換留学プログラムには8名が参加します。

- ・バルドスタ州立大学（米国）2名
- ・レイクランド大学（米国）2名
- ・アルゴマ大学（カナダ）1名
- ・ブレーメン州立経済大学（ドイツ）1名
- ・ナンヤンポリテクニック（シンガポール）2名

交換留学生受入

秋学期には、3名の交換留学生がSGSに入学します。

- ・ナンヤンポリテクニック（シンガポール）2名
- ・ブレーメン州立経済大学（ドイツ）1名

危機管理シミュレーション

夏期休暇を前に、保険会社の協力のもと、職員16名が参加し、海外で事故が起きたことを想定したシミュレーション訓練を行いました。留学生在活がより安全で充実したものになるようスタッフ一同サポートして参ります。



春学期をSGSで過ごした交換留学生（RMIT）の送別会を行いました。

キャリア支援課

4年生(2014年3月卒)の就職活動は、2012年12月から始まり、8か月が過ぎようとしています。採用の傾向としては、早々に内々定を決める企業が増加し、学生は内々定保有者でも就職活動を続ける傾向にあります。(別表1参照)

一方で、昨年同様、採用の長期化も予想され、翌年の3月まで続くと思われます。夏から秋にかけては中小企業の求人が活発化し、大企業でも採用を継続する企業もありますので、気を緩めず、就職活動を続けることが重要です。

本学のキャリア支援の特徴の一つである2年生の国内インターンシップには、春・夏合わせて例年70%以上の学生が参加しています。今年度の春学期は約50名が、国内インターンシップの事前授業に参加し、8月から9月にかけて企業・団体で実習を開始しています。

(別表2参照) アルバイトとは違う就業体験をすることで「社会人として組織の中で働く」ことを経験し、また将来どのような職業に就きたいかを考える貴重な機会となっています。9月28日(土)にはインターンシップの実習内容を一人ひとりが発表する「インターンシップ報告会」を予定しています。

別表1

主な内々定先	
製造業	中川装身具工業(株)、三菱自動車工業(株)
情報通信業	(株)ヒューマンレスト、ネオプロモーション(株)
運輸業、郵便業	エアリンク(株)、丸全昭和運輸(株)、全日本空輸(株)、トレーディア(株)
卸売業、小売業	(株)イッセイミヤケ、青山商事(株)、(株)スタイラ、フルラジャパン(株)、(株)ルネ、(株)島忠、(株)梅田モータース、横浜日野自動車(株)、(株)ハヤシゴ、プリモ・ジャパン(株)
不動産業、物品賃貸業	(株)ハッピーハウス、(株)ケインズ、住友林業ホームサービス(株)、THR住宅流通グループ(株)、ウスイホーム(株)、(株)ユーミーネット、(株)アールエスエス
学術研究、専門・技術サービス業	(株)翻訳センター
宿泊業、飲食サービス業	(株)四季リゾート、オノゼキトレーディング(株)、日本レストランシステム(株)、(株)エスエルディー、(株)あきんどスシロー、アパホテル(株)、(株)京王プラザホテル、富士屋ホテル、リゾートトラスト(株)、(株)ホットランド、ユナイテッド&コレクティブ(株)、(株)フクシマ商事、(株)クワイート・レストラン・ホールディングス
生活関連サービス業、娯楽業	(株)ダイナム、(株)ジンコーポレーション、(株)トリート、(株)ニラク
教育、学習支援業	(株)さなる、(株)秀英予備校、(株)テイルウィンド、ライフツリー(株)、アイドゥー(株)
サービス業(ほかに分類されないもの)	(株)アクア・グライエ、(株)カトープレジャーグループ、(株)インター・ベル

8月6日現在(重複内々定者含む)

別表2

インターンシップ先	
1	いちよし証券(株) 金融
2	(株)NKS能力開発センター 教育
3	江ノ島ボウリングセンター(大安興業株式会社) レジャー施設
4	グランドホテル湘南 ホテル
5	(株)ジープラス・メディア インターネット・通信
6	(株)ジューターテレコム インターネット・通信
7	湘南技術センター(株) IT・情報処理
8	スカイビルサービス(株) 航空
9	(特活)地球市民ACTかながわ/TPAK NPO・NGO
10	(株)ナジック・アイ・サポート 人材紹介・人材派遣
11	日本ビューホテル(株) ホテル
12	医療法人 柏提会 戸塚共立第1病院 病院
13	(株)パソナフオスター 保育所運営
14	ヒルトン東京ベイ ホテル
15	藤沢市観光協会 官公庁・団体
16	特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会(藤沢市市民活動推進センター) 官公庁・団体
17	(株)ホテル・ニューグランド ホテル
18	三井物産スチール(株) 商社
19	(株)横浜グランドインターコンチネンタルホテル ホテル
20	(株)横浜八景島 レジャー施設
21	(株)横浜ベイホテル東急 ホテル
22	(株)ライセンスアカデミー 大学新聞社 教育
23	リゾートトラスト(株) ホテル
24	特定非営利活動法人 留学協会 NPO・NGO

湘南台七夕まつりー地域貢献

7月7日(日)に、湘南台駅地下特設会場にて、「湘南台七夕まつり」が開催されました。第7回目の今年は、本学2年生の小山遥花さんと曾我葉さんが実行委員会の中心メンバーとなり、4月から企画に携わり、当日の運営を任されました。実行委員会のメンバーには、今年より藤沢市で発足した郷土づくり推進協議会、地域の商店連合会、商店街協同組合、青少年育成協力会、竹林の会とで構成され、社会人の方々に対し、学生ならではの若い発想力で積極的に意見交換を行いました。開催目標は、「湘南台の子どもたちに夢を。湘南台の魅力づくり及び駅地下の活性化」としました。



イベントの1週間前には、地域の子もから大人まで楽しんでいただけるよう短冊をはじめとした装飾を学生ボランティアスタッフで行い、また学内でも竹飾りを行い、学生・教職員が願いをこめた短冊を飾りました。

イベント当日は七夕コンサートが行われ、司会進行は、本学3年生の武内一貴さんと2年生の須貝里美さんが抜擢されました。鈴木恒夫藤沢市長の挨拶から始まり、地域の中学校、高校、大学から各1団体ずつ特設ステージにて日頃の活動成果を発表しました。本学からはダンスサークル「Best of Best」が登場、市民をくぎ付けにするパフォーマンスを披露しました。

参加学生は、運営を成功させた達成感があつたようです。秋には、藤沢市民まつり、湘南台まつり、湘南台ファンタジアなど、地域の大きな祭典が続きます。多くのSGSの学生がボランティア協力することを期待しています。



SGS球児の夏一球技大会

年1回の球技大会(学生会主催)を7月20日(土)に開催しました。

今年は午前中に体育館にてドッジボール、午後は学生から開催要望が多かったソフトボールを近隣の小学校グラウンドを借用して実施いたしました。いずれも接戦が多く大盛況でした。

以前は、グラウンドのない本学でソフトボール大会の実施は無理と、学生内で端から諦めていましたが、日頃からボランティア活動等を通じて地域貢献をすることで、小学校から理解を得られる環境が整い実現いたしました。学生スタッフは、小学校長へ依頼や打ち合わせを重ねるなど交渉力を学ぶ機会が多く与えられ、次回に活かす経験の場となりました。

今後は企画や広報に力を入れ、参加者増の計画をしっかりと打ち出すことを期待しています。学生時代にしかできないチーム活動への参加は、社会に出る上での大切な財産となることをより真摯に考えてもらいたいと思います。

入試課

OPEN CAMPUS 2013

多摩大学グローバルスタディーズ学部の夏のオープンキャンパスが、7月28日、8月4日、8月11日と3週連続で開催されました。いずれの回も、多くの来場者で賑わいました。参加した高校生の多くが英語教育プログラムの模擬授業に参加し、在学生との交流会「ウェルカムCafé」で学生スタッフとの交流を楽しみました。

9月以降も毎月オープンキャンパスを予定しております。学部説明や模擬授業のほか、個別相談やキャンパス見学ツアーもございます。是非、ご近所の方や後輩の高校生にご紹介いただきますようお願いいたします。



★オープンキャンパスはいつやるの?

★オープンキャンパス日程

9/29 SUN
13:00~16:00

10/13 SUN
13:00~16:00

11/10 SUN
13:00~16:00

12/1 SUN
13:00~16:00

12/8 SUN
13:00~16:00

教員紹介

良峯 徳和 先生 **Norikazu Yoshimine**

僕の研究室にきた学生が、本棚に並んでいる本を見てよく言います。「先生の専門は何ですか。」

書棚にはコンピュータ関係の文献から、言語学、文芸

評論、心理学、天文学や生物学をはじめとしたさまざまな一般向けの科学書、または新旧の哲学の文献まで、幅広くというかとりとめもなく並んでいます。おそらく他の先生の研究室を訪れたことのある学生にしてみれば、どこに中心があるのか推し量りにくかったのでしょうか。

僕の場合、学生時代に興味の中心を占めていたのは「心」とは何なのか、という疑問でした。フロイトの翻訳書などを高校時代から読んでいたためか、心には摩訶不思議な性質がたくさんあるけれども、同時に一種の機械のような複雑な構造や規則性を持っていることに興味を惹かれました。それで大学では、「心」について最も詳しく勉強できる分野だと思って哲学を専攻しました。「心」のようにあやふやで、コロコロと変わるものが、どうやって世界に関するさまざまな真理を知ることになったのかというテーマに惹かれて、大学時代は科学、とりわけ心理学の歴史や科学基礎論と呼ばれる分野を中心に勉強しました。

その後、大学院でさらに哲学の分野で研究をすることになるのですが、そこでは哲学の分野で行われてきた「心」の研究が科学に変貌して歴史、いわゆる心理学が成立する歴史を研究テーマにしました。そのころたまたま日本に来ていたイギリス人の先生の講義を受けて、当時の日本ではまだほとんど議論されていなかった最新の哲学の観点から「心」を研究したいと一念発起して、「心の哲学」の専門のコースのあるイギリスの大学に留学しました。そのときにイギリスで受けた哲学の授業で、脳の手術やスター・トレックに出てくる転送(人の瞬間移動)、レストランでの注文を行うコンピュータプログラムなどのトピックを題材にしながら、心にまつわる伝統的な問題について議論した経験はたいへん新鮮で、その後の研究の方向に大きな変化をもたらしました。

日本に帰ってきて、今度は工学系の大学院で、まったく工学的ではない人間の「心」の働きをコンピュータシミュレーションという手法で解明するという以前では考えられなかった研究を始めることにしました。物語や作り話を理解して楽しむというのは、地上の霊長類でも人間だけが持っている特殊な能力ですが、このプロセスを解明することで、人間の優れた心の働きに関する多くのことが徐々にわかっていくものと期待されます。目標が遙か遠くにあるので、研究はまだまだ端緒についたばかりの段階なのですが、日々の経験からいろいろな発見ができて、楽しくやりがいを感じられます。

そういうわけで、僕の研究室にはいろんな分野の本が雑多に混在しています。ここにある本たちはこれまでの僕の研究分野の足跡を示しているとともに、心を解明するにあたってはさまざまな分野の研究が必要だということを教えてくれています。僕の本棚を見て、少しでも学生の好奇心を引き出せれば嬉しくなります。僕の「科学の心(Ethos of Science)」という授業では、ひたすら学生の知的好奇心を引き出すことに主眼をおいて、古今東西を問わず、科学にまつわるさまざまな話をしています。歴史をみてみると、好奇心こそが、偉大な科学者を生み出した原動力といっても過言ではないでしょう。学生たちも、つねに好奇心をもって学生生活を送って欲しいと願っています。

ところで夏になると、ホラー映画を見たり、幽霊屋敷やジェットコースターに行く人が増えますよね。人間は本来、怖い経験はしたくないのが当然なのに、なぜ好んでそのような怖い体験をしたいと思うのでしょうか。この問題は、人間の心のもつ奇妙さ、不思議さを示す有名な問題で「ジェットコースター問題」とも呼ばれています。これまで何冊もの本や論文が、こうした問題を解明するために書かれています。(ちなみに、僕にイギリス留学を勧めてくれたイギリス人の先生も、こうした問題を専門に研究していらっしゃる有名な研究者の一人でした。)皆さんも、この夏、ジェットコースターに乗ったついでに、この問題の解明に挑戦してみませんか。

